

## 議員派遣行政視察報告書

- ・視察期間 平成30年1月29日（月）～平成30年1月30日（火）1泊2日
- ・視察先 鳥取県 EV・PHVタウン構想について  
出雲市 神門通り地区街なみ整備助成事業について
- ・視察議員 岩 下 彰  
中 尾 孝 夫  
花 岡 ゆたか

※中尾議員は出雲市のみ視察を実施しています。

※上記の順に行政視察報告書を掲載しています。

# 行政視察報告書

議 員 岩 下 彰

---

■ 調査の期間 平成 30 年（2018 年）1 月 29 日(月) ～ 30 日(火)

■ 参加議員 岩下 彰 ・ 中尾 孝夫（出雲市のみ） ・ 花岡 ゆたか

■ 調査先及び調査事項

鳥取県 ・ EV・PHV・FCV の普及について

生活環境部 環境立県推進課 次世代自動車普及促進統括 課長補佐 足立 様  
生活環境部 環境立県推進課 次世代自動車普及促進担当 係長 松原 様

出雲市 ・ 神門通り街路事業と神門通りまちなみづくり事業について

都市建設部 まちづくり推進課 課長 三島 様  
都市建設部 まちづくり推進課 管理係 係長 村尾 様  
都市建設部 建築住宅課 景観係 技師 神門 様

■ 事業概要・感想・意見

1 月 29 日 鳥取県 EV・PHV タウン構想について

足立課長補佐より熱のこもった説明を聞く。

公共交通の主力であるバスの廃止にともない、大山町に導入される。

町内 168 の集落、379 ヶ所の乗り場を設定。

きめ細かく選定されている。

80 か所の目的地、電気自動車を運行。

鳥取県においては、カーシェアリングサービスが、米子市においては最も大切な充電インフラ整備に取り込んでおり、注目する。

第 2 期（2014～2016 年）タウン構想に取り組んでおり、積極的な姿勢を評価したい。

1 月 30 日 出雲市神門通り地区街なみ整備助成事業について説明をきく。

出雲大社前の参詣通としての整備であるが、住民の合意形成に向けた取り組み、社会実験、安全対策修景、広場、ポケットパーク、空き店舗対策とさまざまに取り組んで、賑わいを取り戻しており、今後さらなる発展を願う。

平成30年1月30日(火)

出雲市(島根県)・・・神門通り地区街なみ整備助成事業

神門通りは明治45年の国鉄大社線開業にあわせて、大社駅から出雲大社への参詣道として整備されたが、平成2年の廃線やモータリゼーションの加速等により出雲大社参拝の動線が変化し、神門通りが衰退した。

そこで、延長730m、幅員12mで都市計画決定し、平成23年度から30年代後半まで石畳舗装、電柱類地下化、デザイン照明設置、クロ松保全、橋梁架替、修景舗装など43億円を投じて整備事業を実施。

また、地区まちづくり協定を策定し、建築物等の整備に関して、概ね2階以下、壁面線の連続性、屋根(切妻等の和風傾斜の黒・灰色系の日本瓦)、外壁(漆喰塗りの和風仕上げで、色彩は白・灰色・茶色)、屋外広告物などの基準を規定している。

建物修景として、対象工事費の2/3(限度額200万円)の率で、7年間で合計30件4,600万円の補助実績がある。また、家賃・広告宣伝費補助も行っている。

その結果、出雲大社周辺への入込者は平成23年248万人から25年804万人(出雲大社本殿遷座祭開催)、26~28年各600万人台へ激増した。また、神門通りへの出店数も22年度38店舗から28年度75店舗と倍増した。

→江戸幕府は交通要地の生瀬村を宿駅に指定し、全村あげて宿駅業務(伝馬役、人足役、駕籠役)に携わった。生瀬町の旧街道沿いに宿場町独特の低い庇の旧家が今もその面影を残しているが、修景の参考になる。

# 行政視察報告書

議員 花岡 ゆたか

■ 調査の期間 平成 30 年（2018 年）1 月 29 日(月) ～ 30 日(火)

■ 参加議員 岩下 彰 ・ 中尾 孝夫（出雲市のみ） ・ 花岡 ゆたか

■ 調査先及び調査事項

鳥取県 ・ EV・PHV・FCV の普及について

出雲市 ・ 神門通り街路事業と神門通りまちなみづくり事業について

## 1. 鳥取県

人口 58.8 万人 面積 3,507.13 平方 km



Map data ©2018 Google

鳥取県は、山陰地方の東側を占め、東は兵庫県、西は島根県、南は中国山地を挟んで岡山県・広島県に隣接している。また鳥取県は全国 47 都道府県中面積は 7 番目に小さく、人口は最も少ない。関西広域連合に加入している。

各戸当たりの自動車保有率も高く、EV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリット車）・FCV（水素燃料自動車）の実証実験に適していると言える。

■ 概要

EV・PHV・FCV の普及に世界中が動いている中、我が国では経済産業省が中心となって、愛知県・鳥取県・大手自動車メーカーが参加し当該モデル事業を「EV・PHV タウン事業」として 2020 年度まで推進している。

## ■ ポイント

- ・平成 21 年 7 月から、鳥取県庁公用車 EV カーシェアリングを開始。
- ・平成 22 年、経済産業省の主導する「第 1 期 EV・PHV タウン構想」に選定される。当時設置に 1 基あたり約 700 万円かかった充電器に 3 分の 2 の補助し、県下で EV・PHV の充電器の設置を促進する。
- ・平成 25 年 5 月から、CAL レンタカー（智頭石油）が EV カーシェアリングサービスを開始。当初、観光客の利用を想定していたが、単身赴任の若い会社員のニーズが多かった。（地方の県庁所在地には、大手企業の支店が必ずあるため、単身赴任者が多い）
- ・全国の EV・PHV の普及台数の目標値は、2020 年に 100 万台となっている。2017 年（平成 29 年）3 月末時点で約 16.5 万台。鳥取県の普及台数は 2017 年 9 月末時点で 952 台と人口比では全国平均を上回っている。また、インフラで見ると 2017 年 3 月末時点で県下に 181 基の充電器が整備されており、急速充電器では 79 基で人口比で全国トップ。
- ・平成 25 年 7 月に県民アンケートを実施。充電器を設置してほしい施設としては、大型商業施設・公共施設・ガソリンスタンドという意見が多く、EV・PHV を保有しない理由としては、価格に高さがダントツの 1 番で、充電の時間が長い・充電箇所が少ない・走行距離が少ないという意見があった。これらの意見については、EV・PHV の普及に伴い価格の低下が見込まれることや、急速充電器の次世代基準の研究が進んでいること、国が 2030 年の実用化に向けて次世代充電電池の開発を業界に求めている。
- ・平成 26 年 5 月に鳥取・岡山間で「中国横断 EV エコドライブ・グランプリ」を開催、平成 27 年には、「蒜山大山 EV・PHV エコドライブ・グランプリ」を開催。EV は電費 PHV は燃費を競った。メディア戦略として、JKB レーシングビーナスを起用した動画を配信している。<https://www.youtube.com/watch?v=6QyM0p0u2gc>  
また、この動画と関連動画は「JACLA TV」を通して、全国の 300 の自動車学校で放映中。
- ・超小型モビリティ実証プロジェクト（総合特区）を、鳥取市鹿野町と智頭町で観光利用として、米子市法勝寺町でまちなか利用として行っている。
- ・平成 29 年夏、県庁公用車として 10 台の EV・PHV を導入した。PHV（アウトランダー）はガソリンのある限り発電のできる小さな発電所ともいえるので、防災局の災害対応車として導入されている。
- ・鳥取県コムシェア実証プロジェクト（平成 27 年 8 月～平成 32 年 8 月）。WEB 予約制で 365 日 24 時間無人貸出し。県庁公用車利用及び一般ユーザー利用を行う。

鳥取県対応者

議会事務局 議会事務局総務課 課長補佐 岡本 様

生活環境部 環境立県推進課 次世代自動車普及促進統括 課長補佐 足立 様

生活環境部 環境立県推進課 次世代自動車普及促進担当 係長 松原 様



鳥取市内の充電設備



中国横断 EV エコドライブ・グランプリ のポスター



コムスシェア実証プロジェクト



コムスと 平井伸治 鳥取県知事

## 2. 島根県出雲市

人口 17.5 万人 面積 624.36 平方 km



Map data ©2018 Google

出雲市は、島根県の東部に位置し、旧出雲市を含む2市5町が合併し現在の出雲市となっている。山陰地方第3位人口を有しており、人口減の続く山陰地方に於いて珍しく人口の微増を続けている。「神話の国 出雲」として出雲神社の門前町として古くから栄え、観光業に頼る側面が大きかったが、近年、観光客の大幅な減少が続いていた。

### ■ 概要

神門通りは、明治45年の国鉄大社線開業に合わせて、大社駅から出雲大社への参詣道として整備された。旅館や飲食店・土産物店が立ち並び賑わいのある道であったが、モータリゼーションと1990年のJR大社線の廃線により、出雲大社参拝の動線が変化し衰退してきていた。近年では、シンガーソングライターの竹内まりやさんのご実家である旅館の「竹野屋」が廃館の危機に陥った事が有名である。

平成25年の出雲大社ご本殿の大遷宮に向けて、神門通りを再生させなければならないという気運が高まった。

### ■ ポイント

- ・神門通り再生手法として、島根県（道路整備）と出雲市（神門通り周辺街並み環境整備）が一体となった取組みが行われた。
- ・住民の合意形成を前提とした住民参加型道路景観整備計画の策定のため、アンケート・ワークショップ・社会実験を多用し、意見を集約。

- ・住民の合意形成に向けた平成 21 年 10 月から 11 月に行ったアンケートと、平成 22 年 7 月～平成 23 年 12 月に行った合計 9 回のワークショップから、松並木の保存や道路幅員の現状維持・無電柱化などの方向性が決まった。
- ・平成 22 年 11 月 25 日～12 月 5 日の 11 日間に社会実験として、ワークショップで検討されたシェアド・スペース（歩車共存道）と従来の歩車分離との違いを体験したり、歩道を拡幅し中央線消去、歩道の魅力創出のための縁台設置沿などを行い、沿道住民・観光客・バス運転手等への意見収集を行い、その評価を行った。
- ・社会実験により大型バスの離合の危険性がわかり、平成 23 年 4 月から観光バスの北行き一方通行の自主規制が開始。
- ・「100 年先まで愛される景観を」というキャッチコピーのもとデザイナーの監修による石畳舗装・ストリートファニチャー・ポケットパークなどに統一感のあるトータルデザインが取り入れられている。
- ・出雲市は平成 18 年に景観行政団体に移行し、市内全域を「景観計画区域」として設定。
- ・神門通り街なみ環境整備事業が平成 23 年度～平成 32 年度の 10 年間で開始。  
街なみ環境整備事業として沿道にポケットパーク「縁結びスクウェア」を整備。
- ・街なみ環境整備事業として、ワークショップから出た、建物に統一性を持たすべき、自動販売機や室外機が目立たない工夫を、建物の高さを揃えるべき、整備する際の補助を、等々の意見から「沿道建築物修景基準策定委員会」が設置された。メンバーは沿道の 7 町内会長・関係 2 団体（神門通り開発促進協議会・神門通り甦りの会）・アドバイザー（近畿大学建築学科教授）
- ・建築物修景基準 — 出雲大社の門前町にふさわしい " 和 " を基本とした建物に!!!  
高さ：おおむね 2 階建て以下  
屋根：切妻等の和風傾斜屋根とし、黒・灰色系の日本瓦とする。  
外壁：漆喰塗、板張り、吹付け等の和風仕上げとし、色彩は白・灰色または茶色。  
建築設備：和風の囲障を設け、街並みに調和させる。  
門・塀等：自然素材を用い和風のものとする。
- ・建物修景助成 — 対象工事費の 3 分の 2（限度額：200 万円）  
平成 29 年度までで 30 件の実績。
- ・平成 27 年 6 月の全国街路事業コンクール「優秀賞」の受賞をはじめ、数々の受賞。

## 出雲市対応者

市議会 事務局長 山田 様  
 都市建設部 まちづくり推進課 課長 三島 様  
 都市建設部 まちづくり推進課 管理係 係長 村尾 様  
 都市建設部 建築住宅課 景観係 技師 神門 様





神門通りに新たに作られた「縁結びスクウェア」



石畳舗装



統一感のあるストリートファニチャー



建物修景助成 竹野屋



建物修景助成

## ■ 感想・意見

### ・EV・PHV・FCVの普及について

担当の足立様は、国との打合せや講演のために月に数回も東京をはじめ全国各地に行くということです。担当者のエネルギーとパワーがこの実証実験の成否にまで関わってくるのが感じられた。

EV・PHV・FCVの普及は世界の潮流であり、2030年以降ガソリン車は作らないとしている自動車メーカーや、ガソリン車の国内全廃を掲げている国もある。そのような中で、鳥取県と愛知県が特区として、先進的な取組みを行っている。他の地域への早い広まりが期待される。

当然のことだが、インフラの整備と車両の普及が同時並行に進まなければならない、さらに次世代蓄電池や次世代急速充電技術の開発が必須となっている。

普及啓発のために「蒜山大山EV・PHVエコドライブ・グランプリ」等が行われているが、もう一つ話題性がかけていて、周知に工夫が必要である。

国の予算の問題でもあるが、今以上に予算をつけて大規模に事業を展開していく必要がある。

### ・神門通り街路事業と神門通りまちなみづくり事業について

住民の合意形成を前提として事業を進めているため、アンケートやワークショップが行われたが、その様子を聞くと参加者は子供からお年寄りまで年齢層が広く活発に意見が出されたということです。こういった住民やコミュニティのパワーというものが、「まちづくり」にはとても重要である。

景観条例などで縛るのではなく、緩やかな合意形成でありながら、個人も事業者も協力している。他市で聞いた事例では、全国チェーンの店舗が「条例化されていないので従わない」ということがあったと聞いたが、そのような事業者が出てこないとも限らず、条例を作るほうが将来のために良いと考える。

ワークショップに高校生も参加していたということは、すばらしい。

先述のように住民やコミュニティのパワーで修景基準ができ、これがきっかけでコミュニティへの参加者も増え活性化されたという。こういう循環は大変好ましい。本市においても震災後各地で「まちづくり協議会」が発足し、まちが復興していったが、その後コミュニティが活性化した地域もあったが、コミュニティ内で争いがおきコミュニティが崩壊に近い状態になってしまった地域もある。